

2026 年度（4 月入学）

宮崎大学大学院農学工学総合研究科
博士後期課程

学 生 募 集 要 項

- （1）一般選抜
- （2）社会人選抜
- （3）外国人留学生入試

2025 年 5 月

宮崎大学大学院農学工学総合研究科

宮崎大学大学院 農学工学総合研究科 博士後期課程 アドミッションポリシー

1. 教育理念（教育理念・目標、育成する人材像）

農学工学総合研究科における教育理念・目標は、高度な研究能力を有し社会に貢献できる専門技術者の養成、社会人専門技術者・研究者のリカレント教育、および国際的にも活躍できる研究者を養成することにあります。特に、学生の教育研究指導において、農学と工学の諸分野の学問的背景を基盤に、農学と工学とが協力・連携することにより、従来不可能であった、広範な知識に基づいた総合的判断力を備え、技術・知識基盤社会の形成を支える人材の育成を目指します。

2. 入学者受け入れ方針（求める人材像）

農学や工学の分野に関する専門的な学力を有し、さらに農学と工学の学際的な知識を総合的に活用しようとする学習意欲の高い人材を国内外に広く求めています。また、社会人として経験を活かしながら高度な技術や知識を習得しようとしている人材も歓迎します。本研究科における教育研究領域との関連からは、以下のような人材を積極的に受け入れます。

1. 低環境負荷・循環型社会の実現に意欲的な人材
2. バイオマス資源の生産と利活用に取り組む人材
3. 地域社会基盤を保全し、持続型社会の構築に貢献できる人材
4. 安心・安全で持続型の生物生産システムの開発に関心の高い人材
5. 動植物・微生物の機能を生活向上に活かすことに関心の高い人材
6. ポストゲノム研究の成果を食料、環境、健康問題の解決に応用することに関心の高い人材
7. 水産資源の適正管理と持続的水産増養殖システムの開発に関心の高い人材
8. 新材料の創生及びエネルギー変換システムに貢献できる人材
9. 機械加工技術及び構造材料の設計・生産技術の開発に貢献できる人材
10. ソフトウェア技術・ハードウェア技術・情報ネットワーク技術・バイオインフォマティクス技術、情報処理システムの開発に関心の高い人材

3. 入学者選抜の基本方針

上記の「求める人材像」で示す能力を有する人を多面的・総合的に評価するために、以下のような基本方針にもとづいて入学者を選抜します。

1. 一般、社会人、留学生といった出願資格に応じた試験を実施します。
2. 出願書類について審査し、試験結果と合わせて、出願者の能力、適性、意欲などを総合的に評価します。
3. 客観的で透明性のある方法によって、公平に選抜します。

〔選抜区分による選抜方法及び評価の観点〕

① 一般選抜

入学者の選抜は、学力検査（口述試験）及び書類審査の結果を総合的に判断して行います。学力検査（口述試験）、書類審査共に、主として各コースの専門領域の知識・技能、思考力、論理性、表現力、主体性を評価します。

② 社会人選抜

入学者の選抜は、学力検査（口述試験）及び書類審査の結果を総合的に判断して行います。学力検査（口述試験）、書類審査共に、主として各コースの専門領域の知識・技能、思考力、論理性、表現力、主体性を評価します。

③ 外国人留学生入試

入学者の選抜は、学力検査（口述試験）及び書類審査の結果を総合的に判断して行います。学力検査（口述試験）、書類審査共に、主として各コースの専門領域の知識・技能、思考力、論理性、表現力、主体性を評価します。

④ 秋季入学者特別選抜

入学者の選抜は、学力検査（口述試験）及び書類審査の結果を総合的に判断して行います。学力検査（口述試験）、書類審査共に、主として各コースの専門領域の知識・技能、思考力、論理性、表現力、主体性を評価します。

⑤ 外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、学力検査（口述試験）及び書類審査の結果を総合的に判断して行います。学力検査（口述試験）、書類審査共に、主として各コースの専門領域の知識・技能、思考力、論理性、表現力、主体性を評価します。

宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程について

宮崎大学大学院農学工学総合研究科は、平成 19 年 4 月に設置された研究科である。

本研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指す。

このような人材を養成することにより、21 世紀の喫緊の課題である低環境負荷・持続型生産システムの構築、持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、動植物・微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発、地域バイオマス資源の有用物質への変換、ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生、自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発、高度なソフトウェアを活用した情報処理システムの構築等の課題解決に貢献する。

1. 募集人員

専攻名	募集人員
資源環境科学専攻	7 名
生物機能応用科学専攻	4 名
物質・情報工学専攻	5 名

2. 出願資格

本学大学院農学工学総合研究科博士後期課程（以下「本研究科」という。）に出願できる者は、次のいずれかに該当する者とする。

(1) 一般選抜

次の出願資格①～⑧のいずれかに該当する者

- ① 修士の学位又は専門職学位を有する者及び 2026 年 3 月までに取得見込みの者
- ② 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び 2026 年 3 月までに取得見込みの者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び 2026 年 3 月までに取得見込みの者
- ④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び 2026 年 3 月までに取得見込みの者
- ⑤ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を取得した者及び 2026 年 3 月までに取得見込みの者
- ⑥ 外国の学校、学校教育法施行規則第 156 条第 3 号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第十六条の二に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

下記⑦～⑧に該当する者は、出願資格認定の申請が必要となる。

⑦ 文部科学大臣の指定した者

- 1) 大学卒業後、大学、研究機関、民間企業等の研究所、その他研究開発の施設において、入学時点で 2 年以上研究に従事した者で、研究業績を証明する書類（学術論文、研究報告書、著書、特許等）により、本研究科が、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有すると認めた者（「(注)出願資格認定について」を参照）
- 2) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課

程を修了した後、大学、研究機関、民間企業等の研究所、その他研究開発の施設において、入学時点で2年以上研究に従事した者で、研究業績を証明する書類（学術論文、研究報告書、著書、特許等）により、本研究科が、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有すると認めた者（「(注)出願資格認定について」を参照）

- ⑧ 個別の入学資格審査により、本研究科が修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年3月末までに24歳に達する者（「(注)出願資格認定について」を参照）

(2) 社会人選抜

上記の(1) **一般選抜**の出願資格①～⑧のいずれかに該当する者で、教育・研究機関、企業等に勤務中であり、勤務成績が優秀であると所属長が認めた者で、在職のまま入学を希望する者

(3) 外国人留学生入試

上記の(1) **一般選抜**の出願資格①～⑧のいずれかに該当する者で、外国の国籍を有する者のうち、出入国管理及び難民認定法において大学の入学に支障のない在留資格を有する者又は取得できる見込みの者

(注) 出願資格認定について

出願資格認定を申請する者は、「入学資格認定申請書（様式6-(1)）」、「入学試験出願資格認定調書（様式6-(2)）」、「活動履歴書・研究業績調書（様式6-(3)）」（本学HPに掲載の様式又は同等様式の用紙）に研究業績を証明する書類又は写しを添付し、下記提出先へ提出すること。

提出先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学工学部教務・学生支援係（農学工学総合研究科担当）

提出期限

2025年5月30日（金） 17時（必着）

※ 持参する場合は9時から17時までとする。郵送の場合は必ず書留速達とし、受付期間内17時までに必着のこと。なお、受付期間内に到着しない場合は受理しないので、郵便事情を考慮して十分余裕をもって発送すること。なお、提出後の記載事項の変更および書類の返還はいかなる理由があっても認めない。

結果通知

2025年6月18日（水）までに本人へ通知する。

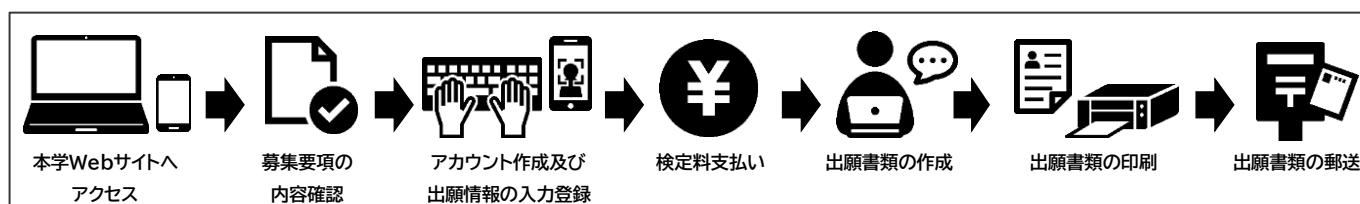
3. 出願手続

インターネットを利用した出願登録を済ませた後に、書類を提出すること。入学を志願する者は以下の(1)～(4)を確認の上、手続きを完了すること。

< 注意 >

宮崎大学 Web 出願システム（以下、「Web 出願システム」という。）で、出願情報を入力・登録し、検定料を支払う（以下、「Web 出願登録」という。）だけでは、出願完了とはならない。出願期間内に「(2) 提出すべき出願書類」の窓口への持参又は郵送（出願期間内に必着）を済ませ、内容に不備がなかった場合、出願完了となる。

(1) Web による出願登録と出願の流れ



※検定料支払い不要者は、出願前に工学部教務・学生支援係（農学工学総合研究科担当）へ連絡すること。（「② 検定料の支払い」参照）

① Web 出願システムによる登録

Web 出願システムへは、本学 Web サイトからアクセスし、Web 出願登録を行うこと。

なお、システムについては PC での操作を推奨する。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/graduate-exam/webapply.html>



証明写真

志願者本人の顔写真をアップロードすること。写真は、志願者本人と判別できるもので、カラー・上半身・無修正・無帽・正面向き・無背景・直近3か月以内に撮影した100KB～5MBサイズのjpg又はpngデータを使用すること。

② 検定料の支払い

1. 検定料 30,000 円

検定料に加えて、支払方法に応じたシステム利用料が必要。（クレジットカード決済は：600 円、コンビニ決済及び Pay-easy 決済は：300 円 なお、システム利用料については変更になる場合がある。）

国費外国人留学生、2026 年 3 月に本学大学院修士課程を修了し引き続き本研究科に進学する者、本学の指定する激甚災害により被災した志願者については、検定料の支払いは不要。出願前に必ず工学部教務・学生支援係（農学工学総合研究科担当）へ連絡すること。

○ 激甚災害により被災した志願者の入学検定料免除について

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/admission/nk-menjo.html>

2. 支払方法

クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy 決済が利用可能。

【注意事項】

※ 支払いが完了すると、出願情報の修正はできません。必ず支払い前に入力した情報（特に、出願先や住所）に間違いがないか確認すること。

※ 出願書類受理後は、いかなる理由があっても検定料の返還には応じません。

ただし、検定料の支払い後、出願しなかった場合は、返還手続きを行うことができますので、期限内に手続きを行ってください。なお、期限を過ぎてからの請求には一切応じません。



返還手続き方法は、下記 Web サイトを確認してください。

- 入学検定料返還手続きについて

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/admission/nk-henkan.html>



③ 出願書類の提出

別添の「出願書類の提出確認表」を参照の上、「**(2) 提出すべき出願書類**」を下記提出先へ期間内に提出すること。

提出先

〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地

宮崎大学工学部教務・学生支援係（農学工学総合研究科担当）

提出期間

2025 年 6 月 19 日（木）～ 6 月 25 日（水）17 時必着

- ※ 持参する場合は、9 時から 17 時までとする。
- ※ 郵送する場合は、市販の角形 2 号封筒（240mm×332mm）の表に「大学院農学工学総合研究科入学願書在中」と朱書きし、必ず一般書留・速達郵便で送付すること。受付期間内 17 時までに必着のこと。なお、受付期間内に到着しない場合は受理しないので、郵便事情を考慮して十分余裕をもって発送すること。
- ※ Web 出願システム登録の事前登録期間として、6 月 12 日（木）から、アカウント作成及び出願情報の入力登録～出願書類の印刷を事前に行うことができる。

(2) 提出すべき出願書類

① Web 出願システムに入力し、印刷するもの

出願書類	摘 要
志願票	Web 出願システムの必要書類から入力し、A4 用紙に印刷したもの。 <u>検定料支払い後は、登録内容は変更できないので、支払い前に間違いがないか十分確認すること。</u>
履歴書	Web 出願システムの必要書類から入力し、A4 用紙に印刷したもの。 <u>登録後は、登録内容は変更できないので、間違いがないか十分確認すること。</u>

② 出願者が本学 Web サイトから様式をダウンロードし、必要事項を記載の上印刷するもの、もしくは別途準備するもの

本研究科所定の様式は下記 Web サイトに掲載している。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/graduate-exam/selection/noukou.html>

所定の様式又は同様の様式への記入の際は、PC を用いて記入しても差し支えない。

ただし、様式の体裁を崩すことのないよう留意すること。



出願書類	摘 要
研究計画書（様式 1）	本学 H P に掲載の様式又は同等様式の用紙に、希望する研究テーマ又は分野について研究指導を希望する教員と相談の上、目的及び構想を 2,000 字（英語の場合は 1,200 語）以内で記入すること。
活動履歴書・研究業績調書（様式 2）	本学 H P に掲載の様式又は同等様式の用紙に、学会や社会における活動内容及び学術論文や研究報告、著書、特許・実用新案等の研究業績（入学希望日から起算して過去 5 年以内のもの）を記入すること。また、業績リストに記載のものから学術論文の別刷り又はコピー（5 編以内）を添付すること。 社会人選抜で出願する者は、研究計画に関係する過去の職務内容について、A4 判用紙（縦型横書き、別紙、任意様式）に、和文の場合は 2,000 字以内、英文の場合は 1,200 語以内で記入すること。
就学許可書（様式 3）	社会人選抜で出願する者は、入学試験に合格した場合に企業に在職したまま、本研究科で勉学することを許可する旨の書類を勤務先の所属長等が作成し、厳封したもの。
修士学位論文の要旨（様式 4）	選抜方法を問わず、修士の学位又は専門職学位を有する者及び 2026 年 3 月までに取得見込みの者と、外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2026 年 3 月までに授与される見込みの者は、本学 H P に掲載の様式又は同等様式の用紙に 2,000 字（英語の場合は 1,200 語）以内で記入すること。なお、関連する論文・学術・講演・特許等がある場合はその写しを添付すること。
オンライン受験申請書（様式 5）	オンラインでの受験を申請する者は、本学 H P に掲載の様式に必要な事項を記入すること。本申請書の提出及び出願書類受付完了をもって、オンラインでの受験を許可する。
修士課程修了（修了見込み）証明書又は出願資格認定書	出身大学長（研究科長）が作成したもの（ただし、本学大学院修士課程を修了見込みの者については、提出を要しない。）又は本研究科が作成した出願資格認定書。

成績証明書	学部及び大学院の成績。特に様式は指定しないが、厳封したもの。なお、編入学等により認定されている科目がある場合には、編入学等前の成績証明書も併せて提出すること。
在留カードおよびパスポートの写し	日本に在住する外国人にあっては、在留カードおよびパスポートの写しを提出すること。海外に在住する外国人にあっては、パスポートの写しのみを添付すること。
入学試験検定料 (30,000 円)	クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy 決済で検定料を納入すること。海外に在住している者において、本学指定の方法で検定料の納入ができない者は提出期限前に余裕を持って 15. 問い合わせ先 へ問い合わせること。 ただし、国費外国人留学生、2026 年 3 月に本学大学院修士課程を修了し、引き続き本研究科に進学する者、本学の指定する激甚災害により被災した志願者は不要。

【注意事項】

1. 出願書類に不備がある場合は、受理しないことがあります。
2. 出願書類受理後は、書類の返却・記載事項の変更は原則認めません。
3. 出願書類に不正な事実があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

(3) 受験票の印刷

7 月 1 日（火）以降に、Web 出願システムの「出願状況確認」から受験票の印刷が可能となります。A4 用紙に印刷し、試験当日に必ず持参してください。

4. 選抜方法

(1) 一般選抜

選考は、学力検査及び書類審査により行う。学力検査は、口述試験により行う。

本学での受験を基本とするが、留学等により海外に在住する日本人で、諸事情により日本への渡航ができず、本学での受験が難しい場合、希望指導教員の許可を得た場合に限り、Microsoft Teams 等を活用したオンラインでの受験を可能とする。

(2) 社会人選抜

選考は、学力検査及び書類審査により行う。学力検査は、口述試験により行う。

本学での受験を基本とするが、勤務先の業務の都合により本学での受験が難しい場合、希望指導教員の許可を得た場合に限り、Microsoft Teams 等を活用したオンラインでの受験を可能とする。

「長期履修制度」については、「**9.長期履修制度について**」を参照すること。

(3) 外国人留学生入試

選考は、学力検査及び書類審査により行う。学力検査は、口述試験により行う。

本学での受験を基本とするが、諸事情により日本への渡航ができず、本学での受験が難しい場合、希望指導教員の許可を得た場合に限り、Microsoft Teams 等を活用したオンラインでの受験を可能とする。

※オンライン受験申請について

オンラインでの受験を申請される場合は、希望指導教員の許可を得た上で、「オンライン受験申請書（様式 5）」を提出すること。

口述試験の内容（一人約 30 分）

口述試験は、修士論文又はそれに相当する研究成果（社会人は研究経歴）について（約 15 分）、入学後の研究計画等について（約 5 分）行い、その後、質疑応答（約 10 分）を行う。

※パソコンを各自準備し、液晶プロジェクター等を用いプレゼンテーションを行うこと。

※オンラインでの受験も、同様の試験を実施する。

5. 試験日程及び試験場

2025 年 7 月 8 日（火）	口述試験	宮崎大学 農学部 （宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地）
-------------------	------	-----------------------------------

なお、試験時間及び試験室等については出願受理後、本人に通知するとともに、試験当日農学部講義棟入り口付近に掲示する。

6. 障がい等のある入学志願者の事前相談

障がい等があり、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、出願書類提出前に本学学び・学生支援機構入試課へご相談ください。相談内容によっては本学において事前の準備を必要とする場合がありますので、できるだけ早急にご相談ください。次表に相談例を示しますので参考にしてください。ただし、この相談例に限定するものではありません。

(1) 相談期限

原則として 2025 年 6 月 2 日（月）まで

ただし、出願締切後に不慮の事故のため受験上・修学上の配慮を必要とする場合については、早急に本学学び・学生支援機構入試課へ連絡してください。

(2) 相談方法

宮崎大学の Web サイトから、相談申請書をダウンロードして、次の内容を記載し、医師の診断書等を添えて提出してください。（郵送可）

- ①志願者氏名・志望専攻・志望コース
- ②障がい等の種類・程度
- ③受験上・修学上の配慮を希望する事項
- ④出身学校等でとられていた配慮事項
- ⑤日常生活の状況
- ⑥住所及び連絡先の電話番号

なお、必要な場合は本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者との面談等を行うこともある。

※相談申請書ダウンロード先：<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/admission/1789-2.html>

（「宮崎大学」→「入試情報」→「受験に関する情報」→「障がい者支援」）

(3) 相談先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
宮崎大学学び・学生支援機構入試課
電話（0985）58－7138 FAX（0985）58－2865

相談例	
①視覚障がい	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は困難なもの
②聴覚障がい	補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は困難なもの
③肢体不自由	1. 肢体不自由により、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難なもの 2. 肢体不自由により、常時の医学的観察指導を必要とするもの
④病弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患により、医療又は生活規制を必要とするもの 2. 身体虚弱により、生活規制を必要とするもの
⑤発達障がい	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等のため配慮を必要とするもの
⑥その他	①～⑤以外の者で配慮を必要とするもの

7. 合格発表

2025 年 8 月 1 日（金）午前 10 時に、合格者の受験番号を農学工学総合研究科担当事務室前（工学部教務・学生支援係）に掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付する。なお、電話等による問い合わせには応じない。

※合格した際、受験票は入学手続き時に使用するので、大切に保管すること。

8. 入学手続・入学料・授業料

(1) 入学手続

合格者に対し、入学手続関係書類を送付するので、所定の期間内に入学手続を行うこと。

入学料 282,000 円

授業料 （前期）267,900 円・（後期）267,900 円

ただし、改定により変更になる場合がある。

授業料の納入は、新学期開始後となる。原則として、預金口座からの「口座振替」とする。

（初回の口座振替日は 5 月下旬頃の予定であり、初年度の授業料は振込若しくは窓口での現金で納入する。）

※ 1. 入学料については、国費外国人留学生及び 2026 年 3 月に本学大学院修士課程を修了し、引き続き本研究科に進学する者は不要。

2. 国費外国人留学生の授業料は不要。

3. 「9. 長期履修制度について」に示す長期履修学生として認められた者の授業料額については、本学財務部財務課出納係に問い合わせること。

4. 納入された入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しない。

（1） 入学料を払い込んだが、入学手続をしなかった場合

（2） 入学料を誤って二重に払い込んだ場合

※返還にかかる手数料は、原則、納入者の負担とする。

(2) 入学料・授業料免除等

入学料・授業料免除等に関する事項は以下 Web サイトに掲載するので、申請する者は確認すること。
<https://www.miyazaki-u.ac.jp/manabi-jim/campus-life-info/school-and-admissionfee/post-22.html>

(3) 問い合わせ先

1. 入学料・授業料に関する問い合わせ先
宮崎大学財務部財務課出納係 電話 (0985) 58 - 7122 (ダイヤルイン)
2. 入学料・授業料免除に関する問い合わせ先
宮崎大学学び・学生支援機構学生支援課経済支援係 E-mail : keizaishien@of.miyazaki-u.ac.jp

9. 長期履修制度について

職業を有している等の事情により、規定する標準修業年限(3年)を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望し、申請が認められた者を長期履修学生という。

なお、長期履修を希望する者の資格及び申請手続きについては以下のとおりである。

(資格) 次のいずれかに該当する者

- (1) 職業を有する者(自営業及び臨時雇用を含む。ただし臨時雇用は単発的なものを除く)
- (2) 家事、育児、介護等を行う必要がある者
- (3) その他農学工学総合研究科長が長期履修することが必要と認めた者

(申請手続き)

- (1) 申請書類
 - ・長期履修申請書
 - ・長期履修申請許可書(職業を有する者のみ)
- (2) 提出期限
 - ・適用する年次の前年度の、4月入学生は2月末日まで、10月入学生は8月末日まで

10. 次世代研究者挑戦的研究プログラム

本研究科は、博士後期課程学生による挑戦的・融合的な研究を支援し、優秀な博士人材が様々なキャリアで活躍できるように研究力向上や研究者能力開発を促す事業である次世代研究者挑戦的研究プログラム(国立研究開発法人科学技術振興機構)に採択されており、本学で組織された次世代研究者選抜委員会に選抜された優秀な博士後期課程学生に対して、生活費相当額及び研究費の支給や、キャリア開発・育成コンテンツ(国際性の涵養、学際性の涵養、キャリア開発、トランスファラブルスキルの習得、インターンシップ等)をはじめとする様々な支援を提供する。対象者や選抜方針、日程等の詳細については、下記 Web サイトを確認すること。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/jisedai/>

11. 奨学金

本学は、独立行政法人日本学生支援機構をはじめ都道府県・市町村・各種団体等による奨学金を取り扱っている。これらはいずれも、人物、学業成績が優秀であり、経済的理由により学資支弁が困難な者を対象に本人の申請に基づき選考の上貸付又は給付される。

奨学金を希望する場合は、下記 Web サイトを確認すること。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/manabi-jim/campus-life-info/scholarship/>

問い合わせ先

宮崎大学学び・学生支援機構学生支援課経済支援係 E-mail : keizaishien@of.miyazaki-u.ac.jp

12. 学生寄宿舍の入居

本学には、木花キャンパスに男子寄宿舍、女子寄宿舍、国際交流宿舍、国際交流宿舍Ⅱ、国際交流宿舍Ⅲ（木花ドミトリ）がある。

学生寄宿舍に入居を希望する場合は、下記 Web サイトを確認すること。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/manabi-jim/campus-life-info/dormitory/>

問い合わせ先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地

宮崎大学学び・学生支援機構学生支援課学生支援係 E-mail: d-ryou@of.miyazaki-u.ac.jp

13. 在学中の保険制度

本学では、学生が安心して教育研究活動ができるように、学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）及び学研災付帯賠償責任保険（略称「学研賠」）を取り扱っている。

「学研災」は、正課中、学校行事中、課外活動中及び学校施設内にいる間、並びに通学中に生じた急激かつ偶然な事故により、加入者が身体に傷害を被った場合に災害補償する制度であり、全員加入としている。

また、「学研賠」は、加入者が教育研究活動中に他人にケガを負わせた場合や、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する制度である。

これらの保険制度についての詳細と加入手続きについては、合格発表後、入学書類と併せて送付する。

14. 個人情報の取扱いについて

- (1) 個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人宮崎大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱う。
- (2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、
 - ①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用する。
- (3) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用する。
- (4) 上記（2）及び（3）の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より該当業務の委託を受けた業者において行うことがある。
- (5) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）
②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用する。

15. 問い合わせ先

（Web 出願システムの操作・登録方法等に関すること）

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地

宮崎大学学び・学生支援機構入試課

電話（0985）58－7138

（上記以外に関すること）

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地

宮崎大学工学部教務・学生支援係（農学工学総合研究科担当）

電話（0985）58－7870（ダイヤルイン） FAX（0985）58－7287

E-mail: noukou-k@of.miyazaki-u.ac.jp

16. 所属教員と主な研究課題

専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
資源環境科学	環境共生科学	教授	伊藤 哲	経営林生態系の生物多様性保全に関する研究
		教授	井戸田 幸子	耕地および草地における作付体系と肥培管理に関する研究
		教授	入江 光輝	水資源・河川管理に関する研究
		教授	宇田津 徹朗	東アジアにおける環境と共生した水田稲作技術の変遷に関する研究
		教授	大島 達也	環境共生型の生体分子複合体の開発に関する研究
		教授	雉子谷 佳男	木本植物の木部形成と木材材質の変動に関する研究
		教授	清水 収	山地流域における土砂動態と土砂災害軽減に関する研究
		教授	末次 大輔	土質安定処理と改良地盤の耐久性評価に関する研究
		教授	鈴木 祥広	水環境における水質保全と修復技術の開発に関する研究
		教授	高木 正博	森林生態系における物質循環に関する研究
		教授	多炭 雅博	衛星リモートセンシングを利用した水資源管理に関する研究
		教授	田中 秀典	植物ゲノムの多様性と分子育種への応用に関する研究
		教授	戸敷 浩介	廃棄物処理・リサイクルの環境影響に関する研究
		教授	土手 裕	家畜ふんのリサイクルに関する研究
		教授	飛佐 学	草地生態系における土・土壌微生物－草の相互関係に関する研究
		教授	平田 令子	野生動物の保護・管理と森林生態系の保全に関する研究
		教授	藤掛 一郎	木材生産と森林環境保全を両立させる人工林経営と地域林業に関する研究
		教授	光田 靖	森林の多面的機能に配慮した森林計画に関する研究
		教授	村上 啓介	沿岸域における波浪災害軽減技術に関する研究
		教授	森田 千尋	鋼橋梁の構造解析と健全度評価に関する研究
		教授	山本 直之	環境共生型物質循環システムの経営経済的評価に関する研究
		准教授	安在 弘樹	放牧草地と家畜の生態系と生産システムに関する研究
		准教授	石垣 元気	温帯地域におけるイネ科・マメ科牧草の生産および家畜への利用
		准教授	稲田 飛鳥	生体分子を用いた環境共生型金属有機構造体の開発
		准教授	大榮 薫	水環境における有害物質の除去技術の開発に関する研究
		准教授	狩野 秀之	持続可能な食料供給システムに関する経済分析
		准教授	櫻井 倫	林業の生産基盤と作業に関する研究
		准教授	篠原 慶規	水・土砂移動に関連した自然環境問題・自然災害に関する研究
		准教授	嶋本 寛	持続可能な交通システムに向けた評価手法に関する研究
		准教授	関戸 知雄	廃棄物処理残渣の有効利用と環境影響に関する研究
		准教授	竹下 伸一	流域における水・気候資源の評価に関する研究
		准教授	徳本 雄史	樹木の生態系内における機能性に関する研究
		准教授	中野 敦	様々な環境下における金属材料の特性評価に関する研究
		准教授	新美 光弘	温暖地域における家畜用飼料資源の貯蔵と利用に関する研究
		准教授	糠澤 桂	河川環境・生物多様性の保全に向けた評価手法の開発
		准教授	橋口 正嗣	植物遺伝資源と作物育種に関する研究
		准教授	福林 良典	地盤材料の有効利用による農村インフラ整備や道路防災・減災対策に関する研究
		准教授	松根 英樹	持続可能な発展に向けたナノ材料合成に関する研究
		准教授	李 春鶴	高性能コンクリートの開発および性能評価に関する研究
		助教	神山 惇	土工構造物の防災機能の向上に関する研究
		助教	権藤 崇裕	草類の分子育種とその安全性評価に関する研究

専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
資源環境科学	持続生産科学	教授	井口 純	細菌ゲノムの多様性解明と分子疫学的解析への応用に関する研究
		教授	稲葉 丈人	植物細胞におけるプラスチド形成機構に関する研究
		教授	井上 慶一	家畜の育種改良と遺伝的多様性の保全に関する研究
		教授	河原 聡	食品栄養学の観点からの畜産食品の品質評価とその改変
		教授	國武 久登	果樹遺伝資源を利用した環境低負荷型品種の開発に関する研究
		教授	佐伯 雄一	ダイズ根粒菌のゲノム生態学的研究
		教授	坂本 信介	家畜、動物園動物、野生動物の行動と生態およびこれらの動物の環境管理に関する研究
		教授	園師 一文	園芸生産物の機能性・食味成分向上に関する研究
		教授	竹下 稔	植物-ウイルス間相互作用とウイルス病害防除に関する研究
		教授	續木 靖浩	持続型生産を目指した動物生産における生殖制御に関する研究
		教授	鉄村 琢哉	環境低負荷型果樹栽培システムの開発に関する研究
		教授	本勝 千歳	環境変化に対応した新規熱帯果樹の導入と持続的生産に関する研究
		教授	湯浅 高志	植物の環境ストレス耐性と栄養シグナル応答の研究
		准教授	安達 鉄矢	生物的防除を基幹とした総合的害虫管理に関する研究
		准教授	石田 孝史	家畜の育種改良における統計遺伝学および分子遺伝学的研究
		准教授	稲葉 靖子	観葉植物の開花結実における熟産生機構とその利用に関する研究
		准教授	木下 統	農作業の安全性・快適性に関する研究
		准教授	高橋 俊浩	動物生産における栄養制御に関する研究
		准教授	徳永 忠昭	効率的な優良家畜集団造成に関する研究
		准教授	仲西 友紀	畜産食品の機能性に関する研究
		准教授	平野 智也	園芸作物の有性生殖機構に関する研究
		准教授	増田 順一郎	球根植物における球根形成とそれに伴う休眠制御機構に関する研究
		准教授	山本 昭洋	様々な環境下における植物の生長制御に関する研究
		助教	霧村 雅昭	環境保全型農業システムの開発に関する研究
		助教	高橋 伸弥	最適制御を応用したロボタ制御系設計の研究
		助教	日吉 健二	生産環境データを活用した農作業の自動化に関する研究

専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
生物機能応用科学専攻	生命機能科学	教授	井澤 浩則	天然高分子を用いる機能材料の創製
		教授	亀井 一郎	森林微生物機能を用いた木質バイオマスの利用ならびに環境浄化技術開発に関する研究
		教授	榊原 陽一	ポストゲノム時代のタンパク質の機能に関する研究
		教授	服部 秀美	バイオマスを利用した生体材料の開発及び応用研究
		教授	山崎 正夫	機能性脂質の体調調節に関する研究
		教授	吉田 ナオト	微生物機能を活用した環境修復技術開発
		准教授	宇都 卓也	生体高分子の固体構造と界面ダイナミクスに関する研究
		准教授	江藤 望	細胞老化に起因する炎症反応に関する研究
		准教授	小川 健二郎	視機能改善作用をもつ食品探索と機能性食品の開発
		准教授	黒木 勝久	生理活性物質の代謝酵素に関する研究
		准教授	塩田 拓也	グラム陰性菌外膜生成機構の解明とその制御に関する研究
		准教授	菅本 和寛	生物活性天然化合物の合成と評価に関する研究
		准教授	廣瀬 遵	細菌ゲノムの構造と物質変換機能の進化
		准教授	山崎 有美	食品機能に関する研究
		助教	宮武 宗利	微生物の機能解析と環境保全への応用
		助教	横山 大悟	腸内細菌叢を介した食品の機能性に関する研究
生物機能応用科学専攻	水域生物学	教授	内田 勝久	水域動物の成長・繁殖生理と内分泌制御機構に関する研究
		教授	田岡 洋介	海洋環境における微生物の動態と有効利用に関する研究
		教授	田中 竜介	水産食品の高度利用に関する研究
		教授	長野 直樹	水域生物の増養殖技術開発に関する研究
		教授	林 雅弘	水域生物が生産する機能性成分の利用に関する研究
		教授	引間 順一	水圏生物における自然免疫メカニズムに関する研究
		教授	深見 裕伸	サンゴの生態・分類・系統および集団遺伝学的研究
		教授	吉田 照豊	水域生物における病原微生物による感染症に関する研究
		准教授	河野 智哉	水域生物の生理活性物質による免疫制御機構に関する研究
		准教授	Urbanczyk Henryk	海洋性細菌の多様性と進化に関する研究
		准教授	村瀬 敦宣	河口域を含む海岸環境における生態学的研究
		助教	西木 一生	水産養殖における疾病の対策に関する研究

専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
物質・情報工学専攻	新材料エネルギー工学	教授	荒井 昌和	光センシング用半導体デバイスと結晶成長の研究
		教授	五十嵐 明則	原子衝突の理論的研究
		教授	奥山 勇治	酸化物のイオン輸送特性と電気化学セルへの応用
		教授	酒井 剛	固体高分子型燃料電池用電極触媒の開発
		教授	迫田 達也	電気エネルギーの効果的運用と保守に関する研究
		教授	白上 努	金属錯体を利用した光機能性新材料開発に関する研究
		教授	西岡 賢祐	高品質半導体デバイスの作製に関する研究
		教授	廿日出 勇	銀河系外天体の観測による、宇宙における物質・エネルギー変換に関する研究
		教授	福山 敦彦	量子ナノ構造半導体の光学的特性評価とデバイス応用に関する研究
		教授	松田 達郎	ハドロン粒子の構造および分光学に関する研究
		教授	森 浩二	銀河系内天体の観測による宇宙のエネルギー循環システムの研究
		教授	山内 誠	天体現象におけるエネルギー変換に関する研究
		教授	吉野 賢二	カルコバイライト型化合物半導体材料の研究
		准教授	井上 謙吾	微生物を用いたエネルギー生産と環境浄化に関する研究
		准教授	太田 靖之	太陽光エネルギーと集光システムの高度利用技術開発
		准教授	加来 昌典	レーザー生成プラズマを用いた極端紫外光源の開発とその応用
		准教授	甲藤 正人	高強度レーザーの開発とその応用に関する研究
		准教授	境 健太郎	新規機能性半導体材料の開発と物性評価に関する研究
		准教授	鈴木 秀俊	超高効率集光型多接合太陽電池用新材料の研究
		准教授	武田 彩希	半導体放射線検出器と物理計測システムの研究
		准教授	永岡 章	高効率光電/熱電変換デバイス開発に関する研究
		准教授	鍋谷 悠	分子系包接環境の光化学と機能発現に関する研究
		准教授	前田 幸重	原子核における核力の少数多体効果の実験的研究
		准教授	松永 直樹	構造用セラミックスへの生体親和性付与に関する研究
		准教授	松本 仁	光機能性両親媒性化合物の合成と組織化に関する研究
		助教	亀山 晃弘	光ファイバーセンサーの開発とその応用
物質・情報工学専攻	生産工学	教授	油田 健太郎	コンピュータネットワークとその応用
		教授	岡崎 直宣	セキュアネットワークの構築に関する研究
		教授	片山 徹郎	ソフトウェアの生成支援と信頼性向上に関する研究
		教授	川末 紀功仁	生産工学における三次元計測とキャリブレーション
		教授	河村 隆介	熱応力解析法とその固体力学的挙動の解明や構造健全性評価への応用
		教授	鄧 鋼	機械要素の疲労強度評価に関する研究
		教授	長瀬 慶紀	太陽熱に関する研究
		教授	山子 剛	生体機械工学に基づいた医療機器の研究開発
		准教授	李 根浩	ロボティクスとIoTの融合
		准教授	池田 論	確率的アルゴリズムの最適化に関する研究
		准教授	大西 修	精密微細加工に関する研究
		准教授	盆子原 康博	非線形振動現象を利用した機械システムの開発
		准教授	舩屋 賢	人や環境と親和性の高いロボット技術の研究開発
		准教授	宮内 優	生体内流動現象に関する研究
		准教授	山場 久昭	計算機による生産システムの設計運用支援に関する研究
		助教	古池 仁暢	樹脂機械要素のトライボロジー評価に関する研究

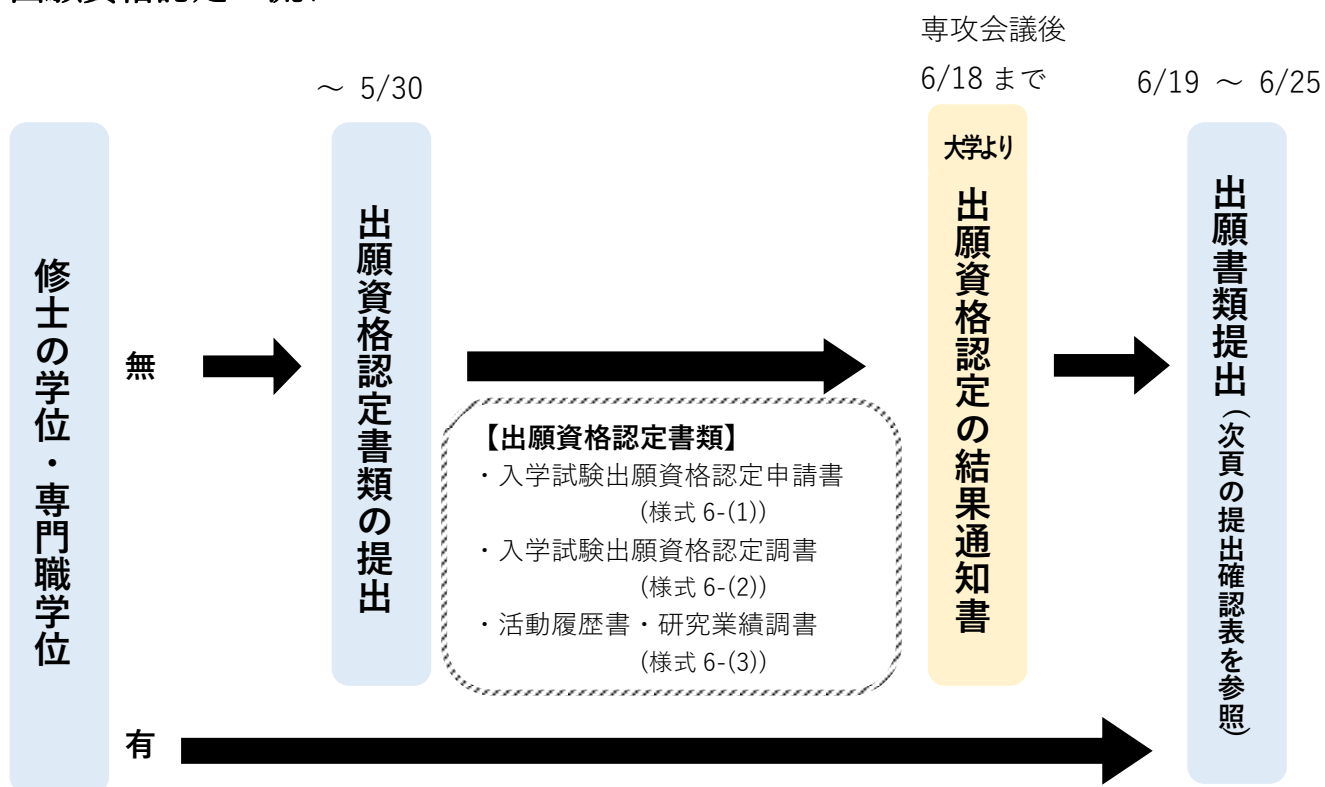
専攻	教育コース	職名	所属教員	主な研究課題
物質・情報工学専攻	数 理 情 報 工 学	教授	飯田 雅人	偏微分方程式を利用した個体群ダイナミクスの研究
		教授	出原 浩史	反応拡散系におけるパターン形成の数理
		教授	内山 良一	医療AIと医療データサイエンスに関する研究
		教授	今 隆助	生物現象の数理モデル化と数理解析に関する研究
		教授	坂本 真人	オートマトンと計算の複雑さに関する研究
		教授	武居 周	高性能数値解析手法の開発と有効利用技術に関する研究
		教授	田村 宏樹	生体信号を用いたインターフェイス機器に関する研究
		教授	淡野 公一	アナログ集積回路の高性能化および高機能化に関する研究
		教授	Thi Thi Zin	画像処理応用に関する研究
		教授	穂高 一条	再生可能エネルギーシステムのためのパワーエレクトロニクスの数理と制御
		教授	棕木 雅之	画像認識、コンピュータビジョン、映像メディア処理に関する研究
		教授	山森 一人	ニューラルネットワーク・進化型計算の高速並列処理と応用に関する情報工学的研究
		准教授	青木 謙二	計算科学的手法による視覚情報処理メカニズムの研究
		准教授	井上 健太郎	シグナル伝達系に関する生命情報学的研究
		准教授	梅原 守道	圧縮性粘性流体の運動の数学解析
		准教授	小林 俊介	非線形偏微分方程式における解の時空間パターンの解析とその応用
		准教授	伊達 章	学習・記憶、自己組織化モデルの数理情報論に関する研究
		准教授	中 良弘	光通信デバイスの数値解析及び設計に関する研究
		准教授	横道 政裕	自律移動ロボットおよびロボットビジョンに関する情報工学的研究

【選抜日程】

2026 年 4 月入学

出願資格認定書類提出（該当者のみ）	2025 年 5 月 30 日（金） 17 時（必着）
出 願 期 間	2025 年 6 月 19 日（木）～ 6 月 25 日（水）17 時必着
試 験 日	2025 年 7 月 8 日（火）
合 格 発 表	2025 年 8 月 1 日（金） 10 時
障がい等のある入学志願者の事前相談	原則として 2025 年 6 月 2 日（月）まで

出願資格認定の流れ



※出願資格認定については、学生募集要項に記載している「2. 出願資格」をご確認ください。

※二次募集は実施しない場合もありますのでご注意ください。実施する場合、本学ホームページによりお知らせします。

出願書類の提出確認表 -2026 年 4 月入学-

<注意>Web 出願システムで、出願情報を入力・登録し、検定料を支払うだけでは、出願完了とはなりません。
出願期間内に、出願書類を窓口へ持参又は郵送（出願期間内に必着）を済ませ、内容に不備がなかった場合、出願完了となります。

選抜区分		一般選抜					社会人選抜		外国人留学生入試	
		修士学位 有（見込み）				修士学位 無	修士学位 有	修士学位 無	修士学位 有	修士学位 無
		本学 修士課程から引き続き 進学する者 （本学修了見込み者）	本学 修士課程修了者	他大学 修了見込み者	他大学 修了者					
Web 出願システムに入力し印刷するもの	志願票	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	履歴書	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Web 出願システムにアップロードするもの	証明写真	○	○	○	○	○	○	○	○	○
出願者が本学 Web ページから様式をダウンロードし、必要事項を記載の上印刷するもの、もしくは別途準備するもの	研究計画書（様式 1）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	活動履歴書・研究業績調書（様式 2）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	就学許可書（様式 3）	—	—	—	—	—	○	○	—	—
	修士学位論文の要旨（様式 4）	○	○	○	○	—	○	—	○	—
	オンライン受験申請書（様式 5）	—	△	△	△	△	△	△	△	△
	修士課程修了（修了見込み）証明書	—	○	○ （修了見込み）	○	—	○	—	○	—
	出願資格認定書 ※前頁参照	—	—	—	—	○	—	○	—	○
	成績証明書（学部と大学院の両方）	○	○	○	○	○ 学部のみ	○	○ 学部のみ	○	○ 学部のみ
	在留カードおよびパスポートの写し	△	△	△	△	△	△	△	○	○
	入学試験検定料 （30,000 円）	—	○	○	○	○	○	○	★	★

※修士の学位（又は専門職学位）を取得していない者あるいは入学までに取得する見込みがない者は、出願資格認定申請が必要。（募集要項参照）

※△ … 該当者のみ（募集要項参照）

※★ … 国費留学生は不要